

砂鉄が豊富川の名は

大原小6年生、磁石使い採取

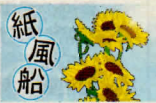
一関市大東町のポランティア団体・ホッパの会(勝部昌平会長)が主催する砂鉄採取体験は11日、同町大原の内野地区の砂鉄川で行われた。大原小学校の6年生31人が磁石を持って川の中に入り、川底に沈んだ砂鉄を集めて地元歴史や川の由来に理解を深めた。体験は旧内野小時代から継続して19年目。同地区は良質な砂鉄を産出する砂鉄川の上流部に当た



磁石を使って砂鉄川の川底から砂鉄を採取する大原小の6年生

採取した砂鉄は、9月に砂鉄川たたら製鉄学習館で行う製鉄体験に使用する。勝部欣一事務局長は「山に大量に含まれている砂鉄が、雨などで崩れて川に流れ込んでくる。この砂鉄を活用してきた地域の歴史を、子供らに学んでほしい」と語っていた。

り、江戸時代以前から明治時代初期ごろまでは製鉄が行われていたことを児童に知ってもらおうと実施している。児童は下川原橋下流と大天場橋下流の2カ所に分かれて砂鉄を採取。会員が農具などを使って石をひっくり返し、舞い上がった砂の中に児童が電磁石を近づけ、黒い砂鉄を引き付けてバケツに回収していた。



◇…一関市大東町の大原小(川恒明校長、児童138人)の6年生31人は11日、同町内野地区の砂鉄川上流で、たたら製鉄体験の材料にする砂鉄を採った。

◇…たたら製鉄の再現に取り組む地元ホッパの会(勝部昌平会長)が作業を指導。児童は避暑も兼ね、清流に足を浸して川底の砂鉄を集めた。写真。



◇…手作りのたたら炉での製鉄作業は9月を予定。小野寺焯君は「砂鉄がどうやって鉄になるのか楽しみ」と熱い心で鉄の完成を待ちわびる。